

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成26年6月19日(2014.6.19)

【公表番号】特表2013-533528(P2013-533528A)

【公表日】平成25年8月22日(2013.8.22)

【年通号数】公開・登録公報2013-045

【出願番号】特願2013-509051(P2013-509051)

【国際特許分類】

G 06 Q 10/00 (2012.01)

G 06 Q 10/06 (2012.01)

【F I】

G 06 Q 10/00 1 4 0

G 06 Q 10/06 1 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成26年4月30日(2014.4.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

図3は、本発明の例示的な実施形態による、多重レベルを有する数値トライ木データ構造の一例を示す。ここでは、第1のレベル26のバケツ25は、第2のレベル31に関してはBINとなり得、そのBIN内には複数のバケツ32、33、及び34が存在することができる。追加的なレベルを可能にすることにより、数値トライ木を再平衡化させる必要性を減らすことができ、計算費用を回避することができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

上述のように、移行比を減衰で更新することの代替法は、移行比を、アクティビティ・ログ内でのその発生レベルのみに基づいて更新することである。例えば、ノード「a」からノード「b」へのエッジ e_1 についての移行比を更新することは、現実のビジネス・プロセス実行のトレースにおいて e_1 が検出された回数の $c(e_1)$ で表されるカウントをとり続けることであり、このトレースは $1 \dots T$ と記述され、 T は直近に受け取ったトレースであり、総計で $|T|$ 個のトレースをこれまでに受け取っている。したがって、

【数11】

$$\phi_a^b(t+1)$$

は、例えば、以下の方程式に従って計算することができる。

【数12】

$$\phi_a^b(t+1) = \frac{c(e_1)}{|T|} \quad (3)$$